

次世代オープン勘定系システム「BankVision®」の導入

日本ユニシスグループは、世界で初めてWindows®ベースを用いて実現した次世代オープン勘定系フルバンキングシステム「BankVision」の地方金融機関への提供を通じて、地域産業を支える金融情報基盤の構築を支援しています。

「お客さまから選ばれ続ける銀行」を経営ビジョンに掲げる紀陽銀行様では、2007年から「BankVision」の導入に着手し、2010年5月に本番稼動を迎えました。約3年の歳月と総勢300名近くの人員を要して進められた「BankVision」導入プロジェクトでは、金融システム本部 岩井 浩一が日本ユニシスのプロジェクト・マネージャ（以下、PM）を務めました。

株式会社 紀陽銀行様とともに



キャンパスのネットワーク基盤や教育システムの提案・構築を担当しています。学生の方々にとってのより良い学習環境から、社会の財産となるたくさんの「人材」が生み出されていきますように。
(株)ネットマークス 栗島 佑季



金融システム本部
S-BITS OSセンター 開発支援P 部長

岩井 浩一

U&U
Users & Unisys

PMを全うするという“喜び”

本プロジェクトがスタートしたのは2007年7月。「BankVision」採用第一号である百五銀行様のシステムが稼動して約2ヵ月後のことです。私を含め、モデル行である百五銀行様のプロジェクト経験者を中心に体制が編成され、私自身はPMとして本プロジェクトに参加しました。

プロジェクト前半におけるPMの大きな役割は、「BankVision」標準機能の適用について方針を決定することでした。新システム導入の主要な目的は、①サービス指向型の考え方を採り入れたことによる「追加開発や変更の柔軟性」と、②オープンミドルウェア「MIDMOST®」の採用による信頼性の高さを活かすことです。これらがもたらすメリットを享受するため、従来のシステムには依存せず、「BankVision」を積極的に適用することに努めました。プロジェクト後半では、テスト工程を含めた本番稼動までのプロセスをリードしていく役割を担いましたが、百五銀行様の開発時にテストの推進リーダーを担当していた経験が非常に役に立ちました。

プロジェクトでは一貫してユニシス側PMを担当しましたが、長期間、ユニシスメンバーを代表する立場の人間としてお客さまから信頼していただけたことは、何物にも代えがたい“やりがい”であり、“喜び”であったように思います。3年間、支えていただいたお客さまには本当に感謝しています。

プロジェクト全員が一体となるために

今回のプロジェクトは、総勢300名近くに及ぶ大規模

なものであるだけに、意思疎通の齟齬が重なれば、致命的なトラブルにもつながりかねませんでした。そのため、メンバー同士のコミュニケーションにはとくに意識を配り、日々の連絡や報告を密に行うとともに、システムテストのフェーズ以降は、毎日、朝と夕方に会議を開くようにしました。毎回、会議室は溢れんばかりの大人数となりましたが、それが大詰めを迎えた緊張感を生むと同時に、プロジェクトチームとしての一体感をつくっていったと思います。

もう一つ気をつけていたのは仕事と生活のバランスです。ピーク時には深夜作業や徹夜での作業に及ぶこともありましたが、モチベーションの前提となる心身の健康を維持するために、必要な休みや十分な睡眠が取れるよう、要員のシフト体制などで調整することに常に気を配っていました。

今回のプロジェクトでは、お客さまとユニシスの多数のメンバーが一つの目標を共有し、その実現に向けて全員が力を合わせて取り組みました。それは大変貴重な経験であり、ここで得たものは大きな財産になったと思います。また、Windowsベースのオープンシステムは、従来のメインフレームに比べて特別なスキル・知識や経験に依存しないため、システム運用における人材の確保や育成、ノウハウの継承にも大きく寄与するものと考えています。

今後は、「BankVision」をさらに多くの地域金融機関様に提供し、ソフトウェアの流通や事務機能の共有などプラットフォームとしてのスケールメリットを上げていくこともテーマとなります。そのためにも、紀陽銀行様とのパートナーシップをより深めながら、新しい分野に積極的にチャレンジしていきたいと考えています。



OJTや先輩社員から学んだ技術をコツコツと積み上げ、試行錯誤を重ねながらも、お客さまの要望を満たすシステムをつくり上げられたとき、大きな“やりがい”を感じます。
USOL東京(株) 島津 知明

VOICE



紀陽銀行 システム開発担当者様から

「BankVision」の優位性を生かし、オープン系活用のフィールドを拡げていくことを期待

株式会社 紀陽銀行
事務システム部
副部長
大西 徹 様

オープン系システムへの信頼の高まり

今回の新システム導入のポイントは、従来のシステム「TRITON®」との“親和性”、オープン系システムとしての“先進性”、24時間365日対応のサービス拡充など将来につながる“拡張性”でした。こうした観点から検討を重ねた結果、日本ユニシスの「BankVision」は新技術を全面的に取り入れた先進的なオープン系システムであり、将来の銀行ビジネスモデルの変革にも柔軟な対応が可能という点から採用を決定しました。

もともと日本ユニシスには、「TRITON」の共同開発をはじめ、長年にわたって当行のシステム構築を手がけていただいています。また、日本ユニシスと当行を含む地方銀行7行で構成する「S-BITSコンソーシアム」において、次期バンキングシステムの研究、企画、実証モデルの開発を共同実施しており、それらの経緯や実績からも、ITパートナーとして信頼たりうるベンダーであると判断しました。

実際、開発から稼働までを振り返っても、オープン系と従来のメインフレーム系との違いや、そこから生じる不具合を、ほとんど意識することはありませんでした。改めてオープン系に対する日本ユニシスの技術力の高さを実感しているところです。今後は、「BankVision」ならではの“新サービス提供に向けたタイムリーなシステム構築”や“サブシステムとの連携のしやすさ”など、新システムがもたらすさまざまな可能性に期待しています。

勘定系システムはミッションクリティカルなシ

ステムであり、これまではメインフレームで構築することが常識とされてきましたが、百五銀行様をはじめとする「BankVision」の稼働実績もあり、オープン系システムへの信頼が高まっています。そうした意味でも、一歩先を進んでいる「BankVision」がその優位性を生かし、活用のフィールドを他の地域金融機関やメガバンクなどへと拡げていくことを期待しています。

一人ひとりが責任を持って自分の役割を果たす

開発規模が大きく、時間的な制約もあるなかで、スピーディかつ効率的に作業を進めていくには、一人ひとりが主体的に状況判断しながら行動していくことが不可欠です。そのため、今回のプロジェクトでは、権限を積極的にリーダークラスの人に委譲し、一人ひとりが責任を持って自分の役割を果たしていけるよう努めました。

また、今回のプロジェクトのような、10年、15年に一度あるかないかの大規模案件に参画できることは、若い人にとってはとくに大きなチャンスでした。そのプロジェクトにおいて、自ら進んで判断し責任を持って行動していったことは貴重な経験になったはず。人を育てる”という意味でも、非常に有意義なプロジェクトであったと思います。

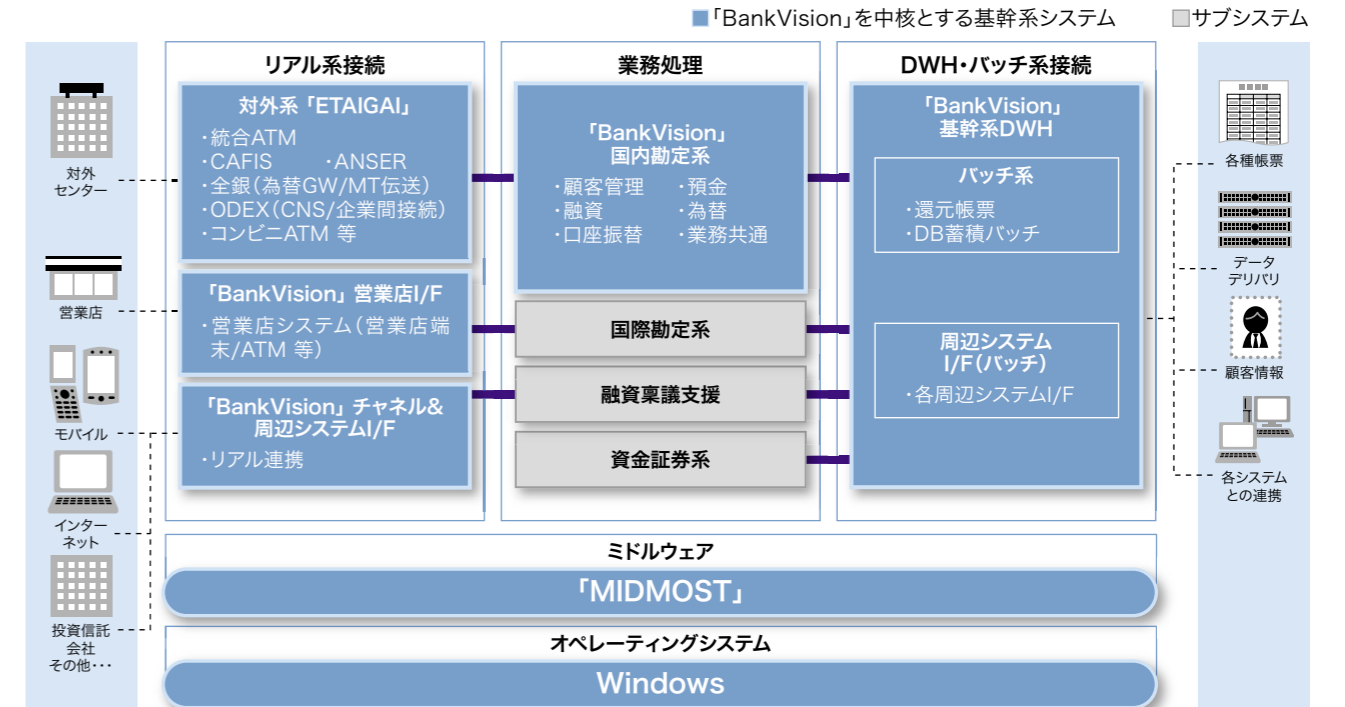
本システムの運用は、日本ユニシスが提供する共同アウトソーシングセンターに委託する形となりますが、今後も運用面に限らず、新規のシステム開発においても日本ユニシスに協力いただく部分がたくさん出てくると思います。また「BankVision」利用行をはじめ、他の金融機関との情報・ノウハウの共有を図るためにも、これまで以上に日本ユニシスとの連携を強めていきたいと考えています。

次世代オープン勘定系システム「BankVision」

日本ユニシスは、1990年代後半から銀行基幹系システムのオープン化に順次取り組み、その集大成として、2007年5月よりオープン勘定系システム「BankVision」の稼働を開始しました。「BankVision」では、日本ユニシスが基幹系分野で長年培った業務やシステムのノウハウ

と、オブジェクト指向の導入といった新しい技術が活かされています。また、オープンミドルウェア「MIDMOST」の採用により、基幹系業務に必要な堅牢性、安全性を実現するとともに、新技術・新機能に対しても積極的に取り組んでいます。

「BankVision」のシステム全体イメージ



※紀陽銀行「新勘定系システム」は、マイクロソフト社のWindows Server® 2008/SQL Server® 2008を利用しており、「BankVision」として最新のインフラの採用となります。

お客さまとともに歩み、お客さまとともに成長していきます



1895(明治28)年の設立以来、一世紀以上にわたって「より多くの地域の人々に貢献すること」をめざしている紀陽銀行様。

「お客さまから選ばれ続ける銀行」として、お客さまの確かな未来づくりを応援し、親身できめ細かいサービスを提供されています。



株式会社 紀陽銀行様 概要



本社所在地: 〒640-8656 和歌山県和歌山市本町1-35
 設立: 1895年5月
 資本金: 800億96万円
 従業員数: 2,207名(2009年9月30日現在)
 ※出向者を除く
 事業内容: 預金、貸出、有価証券投資、内国為替、外国為替、国債等の売買、代理業務、その他
 預金量: 3兆2,686億円
 (2009年9月末現在 譲渡性預金を含む)
 営業店: 109店(和歌山70店、大阪36店、東京1店、奈良2店)(2009年9月30日現在インターネット支店含む)



公共料金システムの開発を担当しています。お客さまや、システムを利用する市民の方々にとっての、安心・安全なシステムを構築していきたいです。
USOL北海道(株) 岩間 綾子



物事を正しく簡潔に伝えること。どんなときでも、曖昧さをなくし、正直に接していくことが、お客さまにとっての「安心感」や「満足」につながっていくものと信じています。
USOL東北(株) 浦橋 希